

少子化の流れを変えよう

日本は世界で最も少子化の進んだ国の一つとなりました。合計特殊出生率は、人口を維持するのに必要な水準を下回ったまま下がり続けています。未来を担う子どもが生まれない、育たないということは、私たちの社会も未来にもかかわる重大な問題です。この少子化の流れを変えるため、行政、家庭、地域で子どもを安心して生み育てられる社会に変えていきましょう。



未来を揺るがす少子化

平成15年の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）は、1・29と過去最低を記録しました。未来を担う子どもが生まれない—それは、私たちにとって、何を意味するものなのでしょう。

少子化の影響は、将来的に税や社会保障の負担が増加するだけでなく、社会や経済の活力の低下、経済成長の鈍化などを招きます。

子ども同士のふれあう機会が減少

また、子どもの数が減ることにより、子ども同士がふれ



あいながら育つ機会も少なくなっています。同年代の仲間同士が切磋琢磨したり、年下の子どもの面倒をみたりするといった経験は、思いやりや正義感といった健全な心をはぐくみます。そうした機会が奪われている少子化社会は、子どもが健全に育ちにくい社会ともいえます。

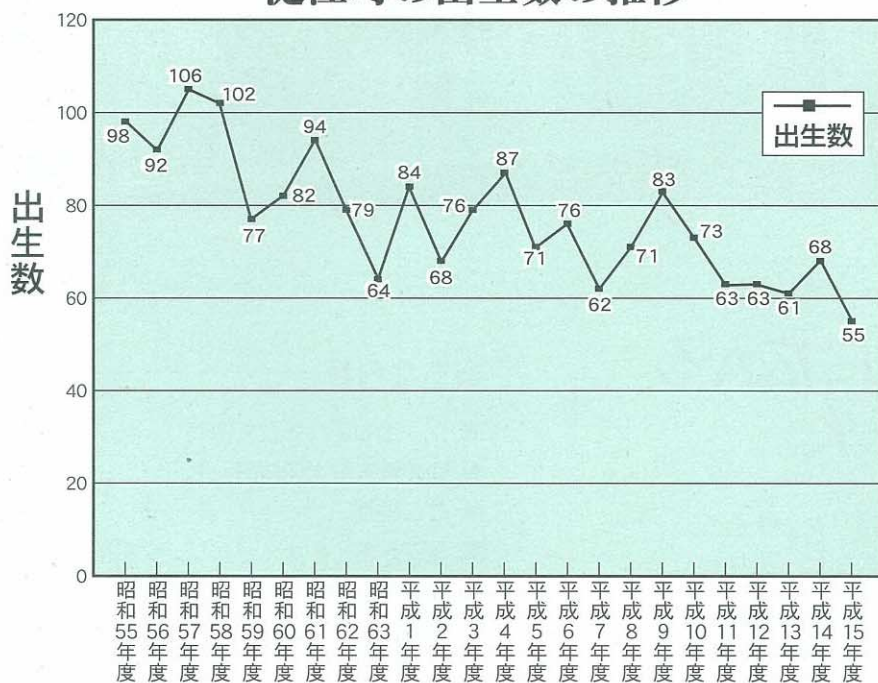
こうした少子化の背景には、結婚や家族に関する意識の変化、若年失業の増大などが考えられます。また、仕事と家庭の両立が困難、育児の負担感が大きいことなどが挙げられています。

淀江町の少子化

淀江町の出生数は全国的な状況と同じく急激な減少傾向を示してきています。子どもたちを取り巻く社会環境は、家庭や地域の養育機能が低下し、連帯意識が希薄化してきているなど、非常に憂慮すべき状況にあるといえます。

少子化の原因は、現代社会が抱えるさまざまな問題が複雑に絡み合っ発生していて、簡単に解決できる問題ではありません。しかし、その原因を具体的に調査し、地域の実情にあった少子化対策に取り組んでいかなければなりません。

淀江町の出生数の推移



第4次淀江町総合計画より